

令和7年度第2回連絡協議会議事（抄録）

(日 時) 令和8年 3月 9日(月) 14:00 ～ 15:45	
(場 所) 静岡県中西部発達障害者支援センターCOCO（一部リモート開催）	
(参加者) 委員 8名（5名リモート参加）・オブザーバー 2名	
令和7年度 第2回 静岡県中西部発達障害者支援センターCOCO 連絡協議会	
1. 開会	開会(14時) 司会(COCO事務局) センター長挨拶
2. 議事	<p>1. 令和7年度事業について</p> <p>【事務局報告】</p> <p>○相談支援実施状況報告</p> <p>○家族等支援事業報告</p> <p>2. 令和7年度の実践と今後について</p> <p>○令和7年度の実践と今後について</p> <p>【意見交換（主な内容）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校において悩みを抱えている保護者にCOCOの取り組みが行き渡らせるための働きかけが重要である ・社会的擁護のこどもを支える里親などへの研修提供の継続した実施を期待したい ・県所管の小中、中高、高大の繋がりや支援のようになっていくか、浜松市単位でみるとつながりが持ってきている ・特に、支援級在籍生徒は高校進学ができないと指導する教員がいる実態があるが、周知や認識、内申評価などに統一性がみられないことは課題である ・COCOの繋がってくるケースでは義務教育以降、どこにもつながっていない人も多い。学齢期からののりしろをいかに作っていくかが大事 ・児童発達支援センターへの研修は効果的である ・今後、強度行動障害支援の専門性をいかに挙げていくか、センターだけでは難しいので県としてどうしていくかの視点が必要である ・中核的支援人材の把握や情報を県から地域にも発信してほしい ・家庭内で両親が受容しても祖父母が認めていないため、異なる関わり方をしてこじらせてしまう。地域全体で見守ってもらえる社会を作してほしい ・親の会について、みんな高齢化してきて自分が亡くなったらどうするの？と我が子に伝えても相談できる情報がまちまちである ・令和2年から高校大学を繋ぐための意見交換をCOCOが実施していく中で、高校の先生が大学に具体的な相談に来てくれるようになった。学習環境を整える大学の役割から、大学後地域に繋いでいく役割が増えた。これまでの取り組みが種を撒き、花となり実となってきた。

	<ul style="list-style-type: none"> ・就労にあたり、学校は「自分で探してください」と紹介されるのみの状況がある。進路指導は学校の役目だと思うが。自己理解、ライフスキルの躰きが課題となって就職に至らない。働き方の種類によって支援が変わる。その辺の支援が不十分。在学中のガイダンス、講座などを企画しているところ ・障害者雇用は手帳でカウントするため、発達の人が該当しにくい、一方精神障害者は2次障害と思われる人が多い ・企業に対しては、現状だけでなく、過去も含めた育ちを知るという支援も大切だと感じる、就労選択支援事業も始まるのでますますCOCOとは連携しながらやっていきたい ・誰がどう言ったら連携が動いたかを記録して共有していく、対人属性で切れてしまうところを持続していけると良い ・放課後児童クラブそれぞれに困り感は大きい。実際にどのようなサポートがされているのか。研修が広がって行くと良い
その他	<ol style="list-style-type: none"> 2. 世界自閉症啓発デーについて 事務局から各地域の取組について報告 3. 委員委嘱について次年度以降の説明
閉会	閉会 (15時45分)